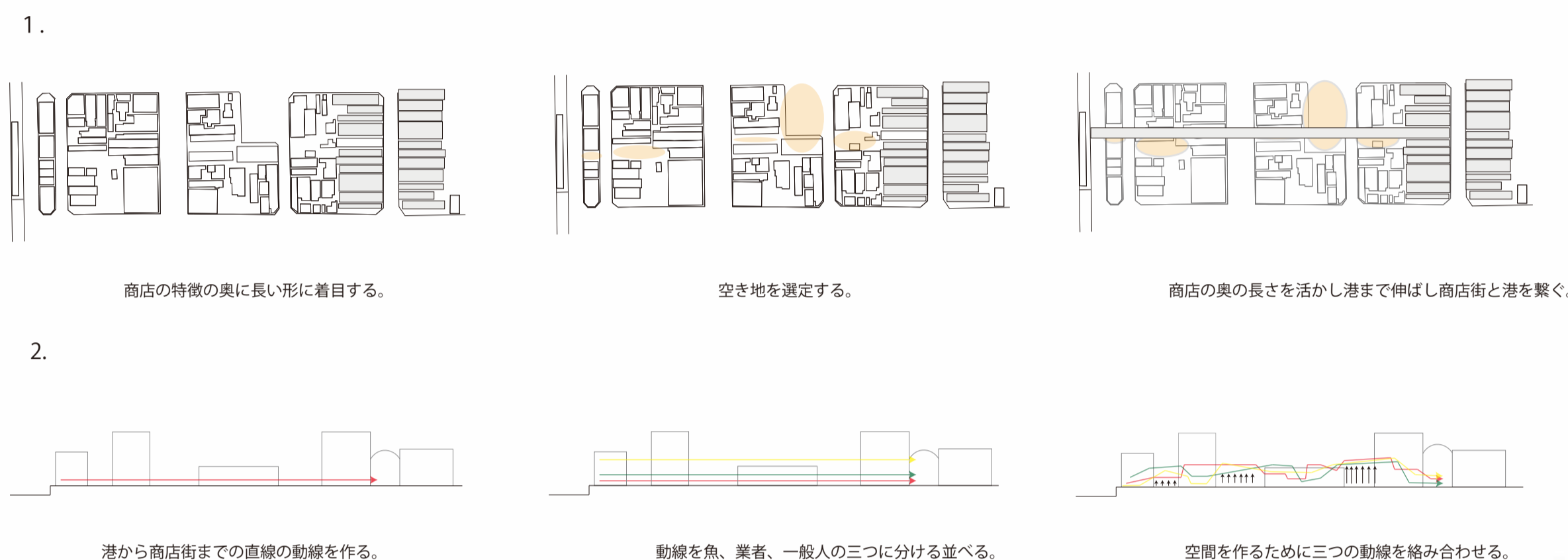


魚線

変わりゆく魚と魚食文化の再構築

魚の棚商店街には昔からたくさんの魚食文化が残っている。だが、その魚食文化が卸売市場の移転や港の埋め立てにより衰退した。かつては、加工工程の機械化により、魚の仲卸店や加工場が多くあった魚の棚商店街と港の間に空き地や空き家が増え、明石の魚食文化が薄まりつつある。商店街と港の間に生産から販売までの魚の流通路を計画し、明石の魚食文化を再構築する。それにより、港と商店街のつながりが強くなり商店街が衰退する前にこの建築によって商店街の衰退を止める。港・加工場・商店街を線で繋ぎ、その線は魚食文化動線となり商店街までではなくその延長線上の家庭の食卓まで魚食文化動線を引く、その線を魚線と名付けた。その線は明石だけでなく全国各地に広がり明石の魚食文化を広げ、この魚線が全国の魚食文化再構築の基盤となるだろう。

形態ダイアグラム



空中路
ベルトコンベアーにより道路の上を魚が飛んでいるような空間をつくる。



釣り堀
海から離れた陸地で明石港以外で捕れる魚を誰でも手軽に釣ることで楽しむことができる。また、この釣り堀で釣れる魚は海と同様に放流されており、新鮮な釣りの体験ができる。



商店街からのファサード
商店のファサードがイケスになって海の中に入るような空間。



タコ干し場 (屋根)
屋根が干し竿になっており、季節によって干されるものが変わり、季節により少し違った空間が生まれる。また、魚やタコの影が落ち、影により季節を感じる。



魚港
明石の海で捕れた新鮮な魚をはじめ、楽しい食卓をお送りする卸売市場である。

海

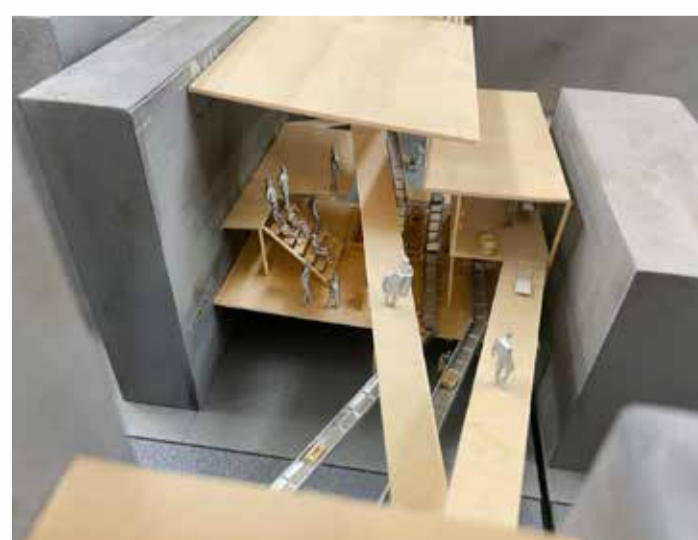


囲炉裏焼
明石で獲れた鯛、囲炉裏で焼かれ、魚が焼かれた匂いが街に漂う。モクモクと上がる煙が空間を仕切る。



立体ベルトコンベアー
躯体に絡みあうベルトコンベアーが魚を持ち上げ加工していく。

交じり合うベルトコンベアー
セリ下ろされた色々な魚が、空中でベルトコンベアーにより交じり合う 未来的な空間。



セリ場
セリ落とされた魚はトロ箱に積みまれ、魚の棚商店街や加工場へ運ばれる。音段は入れない、セリ場に気軽に入れる貴重な場となる。



運搬場
明石港で水揚げされた魚は、京阪へ運搬されるために多くのトラックが集まる。



タコ干し場 (壁)
沿岸の夏の風物詩でもあり、明石の浜のいたるところで見られる風景です夏になると、たくさんの干しダコが吊るされる。



イケス壁
イケスの向こう側が見えるため、向こう側が水槽の中に見えるように見える。

